



# 小国中だより

小国町立小国中学校  
令和元年7月10日  
文責 八木幸夫

## 御協力ありがとうございました いじめアンケート(6月)

保護者、生徒を対象に、いじめアンケート実施しました。保護者の皆さんからの回答では、ご家庭での様子の報告や、家庭との連絡を密にした指導への要望、学校での生徒間トラブルに対する適切な対応についての要望、いじめ防止対策へのご意見などをいただきました。記名での提出にご協力をいただいたことから、お寄せいただいた情報やご意見については個別に連絡を取らせていただき、ご理解をいただいたところです。貴重なご意見、情報提供ありがとうございました。(お寄せいただいたご意見の中から、全体にご報告させたいご意見をいくつか紹介させていただきます。裏面をご覧ください。)

生徒アンケートは6月25日(木)に実施しました。各学年、友人との人間関係に関する悩みや不安の相談が数件ありました。これらについては、担任を中心に個別相談を行い、事情確認の上、生徒同士の話し合いの場や保護者の方を含めた話し合いの場を設けたり、全体指導等の対応を継続しています。また、アンケートの内容に関して家庭連絡をさせていただき、保護者の方と情報を共有し、指導についてのご理解をいただいたところです。

本校の子どもたちは小学校入学時から学級替えはあるとはいうものの、60名ほどの少人数の学年集団で、お互いに気心の知れた中で生活しています。しかし、いったん人間関係が崩れてしまうと、修復できないまま生活している場合も少なくありません。中学校の時期は、自我の確立のために、ものの考え方や価値観が揺れ動き、自分自身の在り方や友達や家族等、周囲の人との関わり方に悩みや不安を感じるようになります。友達の何気ない言動に深く傷ついたり、自分の考えや行動が周囲から受け入れられない不安を感じたりします。また、人の悪口を言うことで自分の立場を正当化したり、友だちとの関係を築こうとするなど、思春期特有の心の動きが出てきます。そして、その心の動きがいじめという行動になることがあります。

本校では、いたずらがエスカレートして相手を傷つける行為になってしまったり、配慮の足りない言葉がけや子どもたち同士の心のすれ違いや言葉の誤解によるトラブルは、どの学年もあります。それが原因で深刻な不安を抱えている生徒もいる状況です。現在、保護者の方と連携をしながら対応を続けております

人と人との関わりの上でのトラブルは、中学生が自立した大人になるためのハードルでもあります。そして、そのトラブルに適切に対応することで、子どもたちはハードルを一つひとつクリアして、少しずつ大人へと成長しています。子どもたちの心のすれ違いが重大事案につながることはないよう、さらにアンテナを高くし、子どもたちの変化を見逃さないよう注意し、客観的に、適正に事実を把握して指導するよう努力を継続して参ります。今後も、お気づきの点についてはいつでも結構ですので、学校へご連絡いただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

また、いじめは人として許されない行為であり、決してあってはならない行為であることを、ご家庭でも繰り返しご指導いただきますようお願いいたします

## いじめアンケート（保護者）から

○友人との会話を聞いていると悪気はないと思われるし、本人も気にしていませんが「死ね」「バカ」「くそ」といった言葉があり気になります。

\* この他、友達同士の配慮の足りない言葉がけや男子生徒の女子生徒に対する配慮の足りない言葉がけ等が気になるというご意見をいくつかいただきました。

貴重なご意見ありがとうございます。ふとした言葉がけが、相手を傷つけていることがあります。言葉を大切にすることは、相手を大切にすることです。繰り返し生徒に指導して参ります。

○指導していただく先生から、ウザい、デブ、バカ等の声が聞かれるようで大変残念。

○体のことを生徒からだけでなく先生からもからかわれるそうです。本人はあまり気にしていないようですが。生徒の間での軽い程度なら気になりませんが、先生からの冷やかしの言葉は親として憤りを感じます。その先生は軽い気持ちでいったのかもしれませんが、言われた方のみになってください。

○大人は子どもの見本にならなければならないと思います。言葉遣いや人のことを考えた思いやりの言葉。教育者となれば、そこは一番気をつかい、行動に気をつけて欲しいです。もちろん親も同じだと思っています。

生徒の言葉遣いだけでなく私達教師の声がけや言葉遣いにも大きな課題があります。

ある職員が校長室に来て、「保護者のいじめアンケートに職員の言葉遣いのことが書かれていました。自分のことだと思います・・・。」と切り出しました。ご指摘いただいた内容に、自分を振り返り、話しに来てくれたのでした。発した本人にとっては悪意のない言葉であっても、声を掛けられた人、それを周りで聞いていた人にとってはどうなのか・・・。言葉遣いだけでなく、子ども達を見る目線、子ども達との関わり方などについて話し合いました。話し合う中で、私自身もあらためて、言葉を大切にすることが、人を大切にすることにつながることを確認できたような気がしました。

その後、職員の打ち合わせの機会に、子ども達を肯定的に見る目を持ち、言葉を大切にしたら関係づくりに努力するよう職員全員であらためて確認しました。子ども達に求める以上に私達教師が、相手を大切にする言動を強く意識して教育活動に当たって参ります。

○生徒一人ひとりを大切にの方針なら、もう少しきちんと学生のことを把握していただきたいです。大人の見えていないところでいじめや嫌がらせがあるのではないのでしょうか。

子ども達との日常の会話や観察、月例の教育相談アンケート等を行い、子ども達の不安や悩みを把握するよう努めているところですが、まだまだ不十分なところがあります。子ども達には不安や悩みを抱え込むことなく、保護者や先生、相談員等に相談するよう声がけしていきます。また、「変だぞ」と思ったこと、感じた時は、迷わず職員間で情報共有することを再確認しました。学校で気づけないことも少なくありません。ご家庭で気になることがありましたら迷わず学校にお連絡ください。ご家庭と協力しながら対応して参りたいと思います。

アンケートへのご協力ありがとうございました。次回「いじめアンケート」は11月に実施いたします。